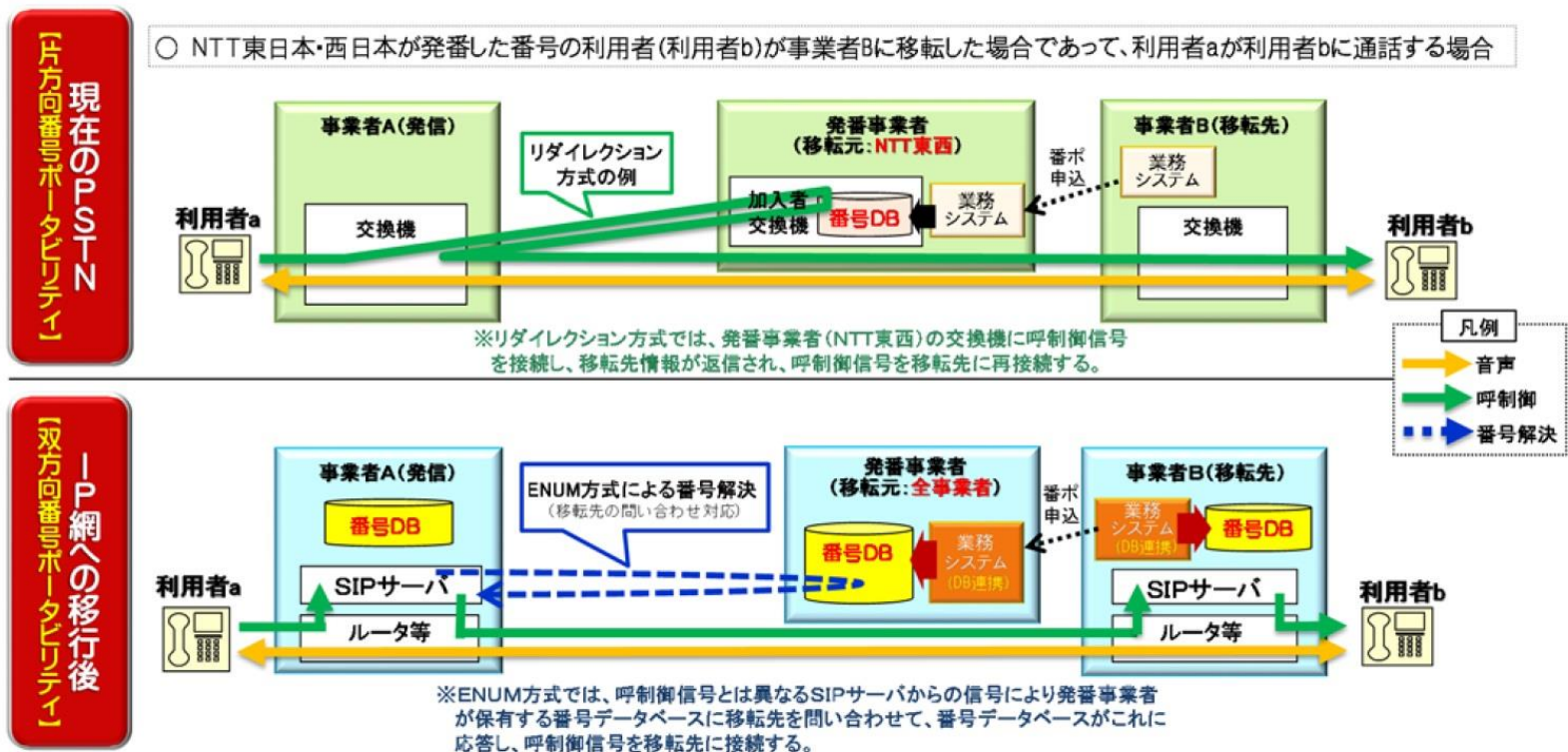


# 双方向番号ポータビリティにおける 例外規定について

2024年5月30日  
東日本電信電話株式会社  
西日本電信電話株式会社

# 双方向番号ポータビリティの概要

- 現在の固定電話の「番号ポータビリティ」については、「NTT東日本・西日本のメタル電話（加入電話・ISDN電話）の新規契約時に取得した電話番号」についてのみ実現している。（「片方向番号ポータビリティ」）
- IP網への移行に伴い、全ての固定電話利用者がIP電話を利用する状況となることから、利用者利便性を確保するため「双方向番号ポータビリティ」を実現する(2025年1月以降予定)



- ▶ 「固定電話網の円滑な移行の在り方」一次答申 P40 6.1 固定電話の「番号ポータビリティ」の扱い
- ▶ 「固定電話網の円滑な移行の在り方」二次答申 P16 2.2 固定電話の「双方向番号ポータビリティ」の円滑な導入

# ロケーションポータビリティの概要

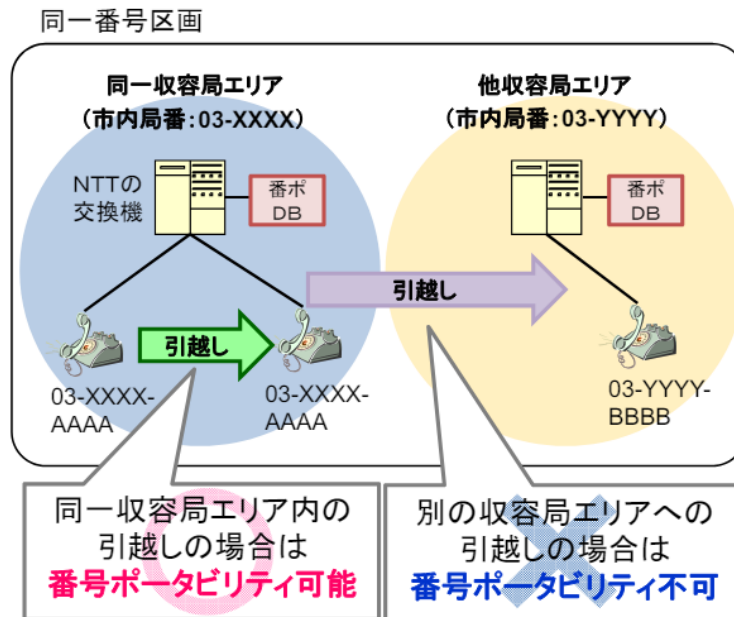
- 「双方向番号ポータビリティ」の導入を前提として、固定電話の電話番号が有する地理的識別性に配慮しつつ、利用者利便の向上を図るため、「双方向番号ポータビリティ」を利用可能な地理的範囲を、番号区画の範囲内とする「ロケーションポータビリティ」の拡大を実施予定

## 「ロケーションポータビリティ」の概要

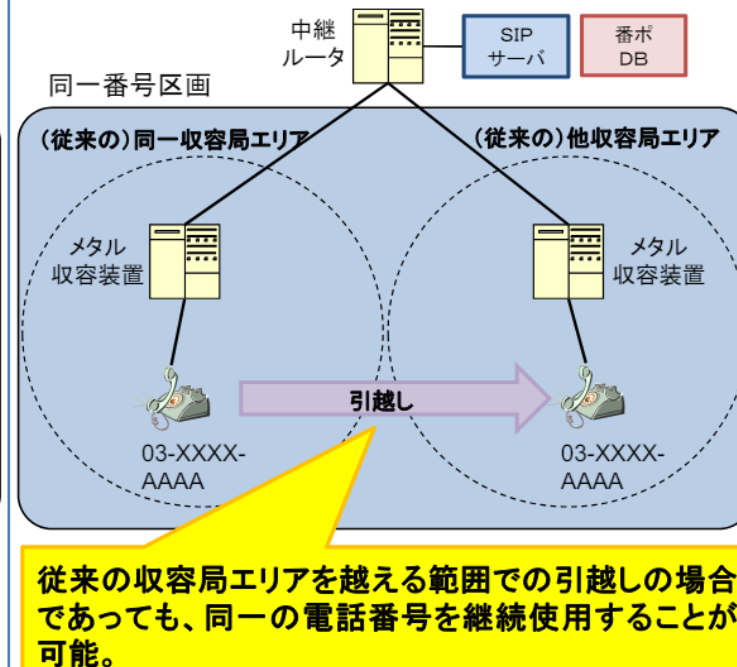
68

- 現在のPSTNにおいては、加入者交換機の番号データベースがある収容局単位でメタル電話を管理しているため、収容局の範囲内での「ロケーションポータビリティ」(引越し等により利用者が移転しても引き続き現在の電話番号を利用できる仕組み)が可能。
- IP網への移行に伴い、技術的には番号管理の単位が地理的に広がるため、例えば番号区画の範囲内など、従来の収容局エリアを越える範囲において「ロケーションポータビリティ」が可能。

### 現在のPSTN



### IP網への移行後 (イメージ)

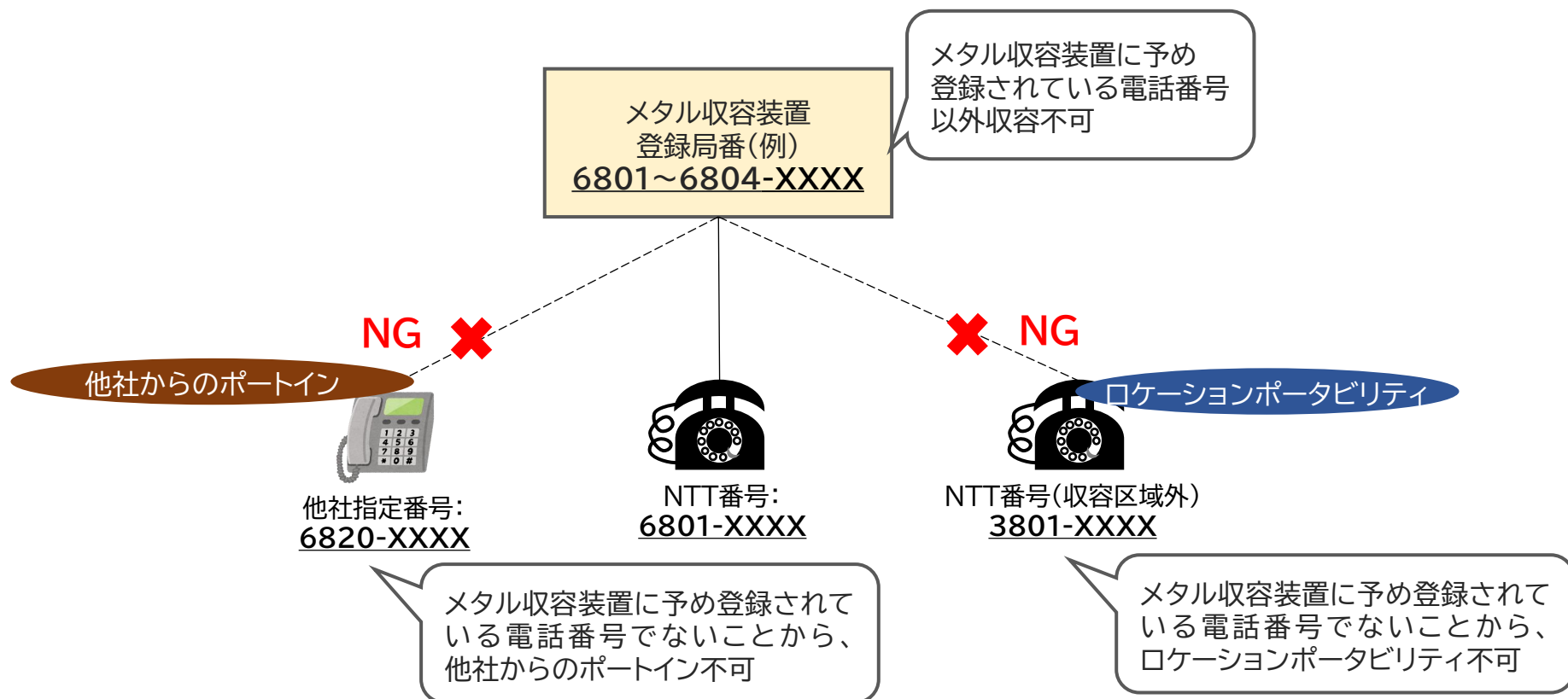


# 番号ポータビリティにおける技術的制約について

- メタル収容装置へは他社が指定を受けた電話番号、及びNTT東西のひかり電話番号帯からNTT東西のメタル回線（加入電話及びINSネット）へのポートインは、電話網移行円滑化委員会※での議論のとおり、技術的に不可
- 番号区画内で番号持ち運びが可能な「ロケーションポータビリティ」についてもメタル回線（加入電話及びINSネット）については、従前通り、収容局変更を伴う移転を行う場合での番号持ち運びは技術的に不可

※第31回電話網移行円滑化委員会の資料等を参照

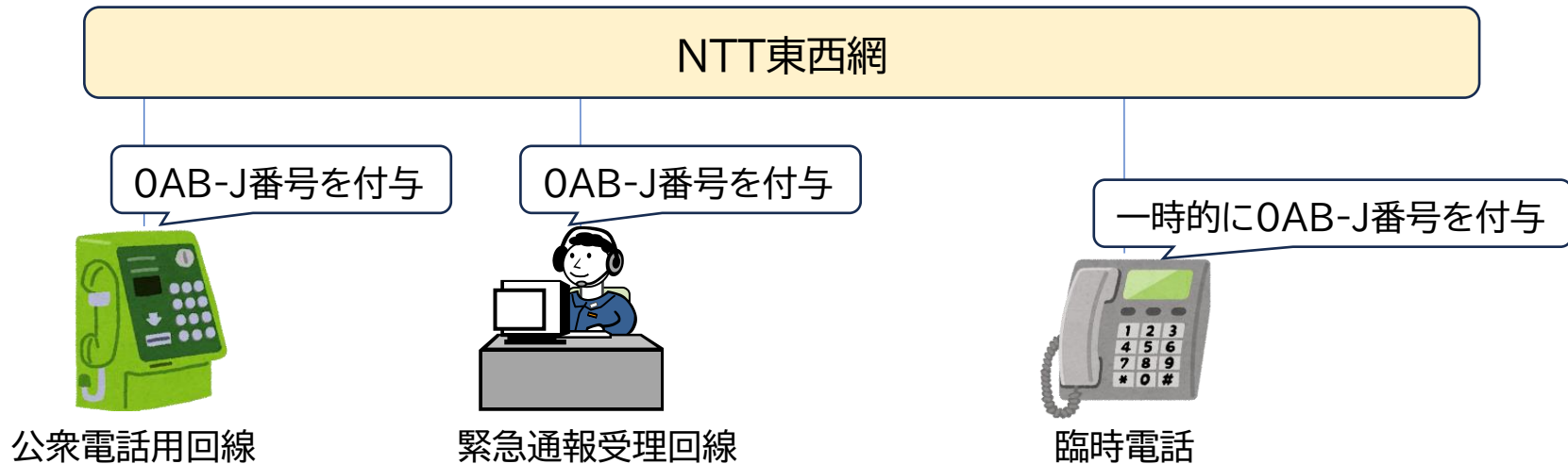
番号区画219  
(東京23区03番号)の例



# 番号ポータビリティのニーズがないケースについて

- NTT東西が提供を行っている公衆電話、緊急通報用電話等、利用者として番号を意識しないサービスについては、番号ポータビリティを行うニーズがないと考える。また、臨時電話は一時的な電話利用であることから、番号ポータビリティを行うニーズがないと考える
- NTT東西と同様に、各社において同じ番号を利用し続ける要望がないサービスについては、番号ポータビリティの対象外とすべきと考える

## 電話番号を意識せずに利用するケース



公衆電話用回線及び緊急通報受理回線には、電話番号(0AB-J)が付与されており、公衆利用ユーザは発信番号を意識せず(一時的な利用)発信し、緊急通報についても、通報者は着番号を意識せず、発信(1XY番号)

臨時電話については、利用を希望するユーザに対し、一時的(30日以内)に番号を払い出して発信